

Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／臼井美喜夫

学校法人電波学園 理事長 小川明治



「ありがとう」の言葉があふれる 教育環境のなかで、 専門プラスアルファの教育を

今 年創立66周年を迎えた電波学

園は、大学・短大をはじめ、8つ
の専門学校、高校、日本語学校を有し、
卒業生数も17万6000人を超す総
合学園として発展してきました。

「面倒見の良い教育」をモットーに、
それぞれが専門性の高い教育を展開
していますが、今後、力を入れたいの
が専門性プラスアルファの教育です。
例えば、建築工学科の学生が福祉を
学ぶことで、これからの住居ニーズに
応えられるはず。同様に、技術系の学
生がデザインやビジネスを学ぶことは
大きな付加価値をもたらします。ま
た、アジア各地の教育機関を訪問す
ると日本の技術や技術指導員に期待
する声の多さを実感しますが、それ

に應えるためには語学力が必須とな
ることは言うまでもありません。

その点、本学園の強みは多彩な専門
分野を揃えていること。各校のトップ同
士の関係性がよく、教員間の連携も密
です。かつては、それぞれの学校の教職
員という意識もありましたが、今は学
園人としての意識が強くなり、一体感をもっ
ています。授業時間数確保の問題もあ
りますが、学校間連携を深め、プラスア
ルフアの教育を進めていくつもりです。

加えて、重視したいのは人間教育。
外国に行く、あらゆる場所で「サン
キュー」の言葉を耳にします。そのひと
言で心が通じる、人間として最も大
切な言葉です。教職員に「われわれの
仕事で一番大切なものは何か」と問う

なかで生まれた学園のキャッチフレー
ズは、「ありがとう、と言われること。」

学生・生徒に寄り添うことを第一に考
えてきた教職員の気持ちを表した言
葉で、教職員バッジにもその意味が込
められています。人間教育というと難
しく感じますが、挨拶を忘れず、感謝
や思いやりの気持ちをもつなど、やる
べきことは身近にあり、その積み重ね
しかありません。教職員に言い続け
きたのは、仮にある学生が辞めたいと
言ってきたとして、それを、大勢の学
生の中の一人の問題として捉えるか、
背後にいる家族のことまで想像力を
働かせられるかということ。クラス全
体からすれば40分の1であっても、本
人や家族からすれば、その一人が10
0%。それを忘れてはいけません。

学園全体で組織のあり方を考える
将来構想委員会において、職員から
前向きな意見があがってくることは
大変喜ばしいことです。ただ、それが
単なる願望ではいけません。他人を納
得させるだけの根拠が必要です。一方
で、変化の激しい時代にあつては、従
来のデータが役に立たず、経験則に頼
れないことも十分承知しています。そ
ういう意味で、常識にとらわれず、変
化を恐れず、新しいことにチャレンジ
する風土を育てていきたいと思えます。

【理事長プロフィール】おがわ・あきはる●1946年生まれ。2005年より現職。学校法人名古屋学園理事長、愛知県専修学校各種学校連合会会長、愛知県私立学校審議会委員。

【学校法人プロフィール】1952年名古屋無線電信学校開校。現在、愛知工科大学 / 大学院、愛知工科大学自動車短期大学、ぎふ国際高等学校、名古屋工学院専門学校、東海工業専門学校金山校、あいちビジネス専門学校、あいち造形デザイン専門学校、あいち福祉医療専門学校、名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校、東海工業専門学校熱田校、あいち情報専門学校、愛知工科大学外国語学校を擁する。